

就労継続支援B型事業所 すずかけ

1 基本方針

地域で暮らす障がいのある方が、社会の一員として生きがいを持ち自立した日常生活を営むことができるよう、一人ひとりの障がいの状況に応じた生産活動の提供と個別支援を行う。
また、事業所内外の活動を通じて、利用者の労働意欲の向上を図るとともに、作業環境を整えより高い工賃が支給できるよう努める。

2 利用者の状況（令和7年3月31日現在）

(1) 入所者状況													(人)		
利用人数		前年度末利用者数	令和6年度中の入退所状況										利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
			入所人員	退所人員	退所理由別										
					地域移行		家庭復帰	施設移管	死亡	就職	サービス変更	他			
区 分	定員	GH	アパート等												
		継続B型	38	35	4	5	0	0	0	0	1	1	1	2	6,273
5年度 継続B型	38	35	5	5	0	0	1	2	0	0	0	2	6,182	67.3%	35

(2) 障害支援区分
就労継続支援B型 (人)

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	7	0	5	2	8	1	0	23
女性	2	0	1	3	1	4	0	11
計	9	0	6	5	9	5	0	34

3 事業の実施状況

- (1) 商品開発、販路拡大等による収入増と工賃の向上
令和6年度平均工賃月額 目標 15,000円 → 実績 20,465円
ア 印刷部門において、昨年より受注が始まったガイナーレ鳥取との受注数はやや減少したが、継続して受注を受けた。鳥取大学や手話パフォーマンス甲子園事務局からの依頼は例年通りあり、今年度は新たにねんりんピック関連の受注もあったが、前年度が好調であった為、前年度比較として印刷部門の売上は減少した。印刷業務については、当面継続していく方向性であり、令和7年度には古くなった印刷機の更新を検討する。
イ 昨年度に引き続き、鳥取県産業技術センター専門員の来訪によるHACCP（食品を製造する際に工程上の危険を起こす要因を分析し安全を確保する管理手法）の考え方を取り入れた衛生管理計画に基づく生産活動について、アドバイスを受けて器具管理方法や書式の見しを図った。商品の信頼性を高めるため、衛生管理計画書の元、実施した内容の記録を保管している。
新規の受注として、大江の郷の新商品開発の一部に携わった（ドライフルーツの受託）を受けた。また、サンパックから、たけのこやフルーツの乾燥の受託も受けた。
ウ 初夏に内職的な受注が伸びなかったこともあり、新規で浄水場の除草作業（11カ所、年2回初夏と秋）の受託を実施したが、夏季の屋外作業は熱中症の防止の観点から控える方向で検討する。
その他新規としては、大江の郷からの箱折り作業の受託を開始した。受託作業の受注量は特に景気情勢に左右される為、次年度も不透明な部分ではある。
エ 鳥取県就労事業振興センターと連携を図り、年間を通じ外部注文販売の機会について斡旋を受けた。
- (2) 障がい特性に合わせた支援と職能評価
ア 自閉症等の障がい特性に配慮し、限られたスペースではあるが構造化を図り、落ち着いて働ける作業環境やスケジュール提示など整備に努めた。
イ 利用者の職能評価は3ヶ月毎に実施し、客観的な評価をして作業班の中で本人へフィードバックし作業意欲や能力の伸張に繋がるように働きかけた。

- ウ 個別支援計画作成時、本人、保護者から要望を聞き取り、作業状況を確認し作業内容の見直しや本人の希望に即してステップアップできるように計画の見直しを行った。
- (3) 地域に密着した農福連携と地産地消
- ア 地域のイベントについては、出店（4月のええもん市、7月勝谷地区元気祭り、8月鹿野町夏祭り、9月週末だけまちのみせ、10月鹿野かちみ園秋祭り、11月ノウブクマルシェ、11月勝谷元気まつり、11月鷲峯山麓ハーフマラソン屋台村）し商品販売を行い、商品のPR発信に努めた。
- イ 海産物については、酒津や網代漁協より順調に仕入れが行えた。青果の原材料仕入れにおいては、物価高騰や生育不良の影響で、大根とりんごの仕入れに難航した。梨の仕入れに関しては新たな生産者様との繋がりにより、安定仕入れが実現した。
- (4) 利用者の安定確保
- ア 利用者ニーズに応えるため体験支援体制や作業提供体制を整え、利用や体験を前提とした見学・体験受け入れを行い、4名の新規契約となった。
- しかし、体調悪化による入院や、一般就労にステップアップされた方、施設移管された方がおられ、退所者も5名となり、目標稼働率を達成できなかった。
- 年々が高齢化が進み、65才以上の利用者も多く利用されていることから若年層の利用者の確保が課題である。
- イ 前年度に継続した実習を受け入れ支援体制を整えることで、4月から1名が卒業後の利用に繋げることが出来た。今年度も白兔養護学校からの高等部2年生1名の職場体験実習生を受け入れた。
- また、養護学校5校が一堂に会して福祉事業所説明会を開催された為、すずかけの事業所説明として出席している。
- 稼働率：目標80% 実績66.0%
- (5) 地域福祉への貢献
- ア 「鳥取市西地域つながる会」（精神障害者が地域で安心して暮らせるように検討をしている会）に参加し保健師等から情報を収集している。
- 汐さいの会とすずかけの後援会との情報交換会も開催した。
- イ 勝谷公民館活動（コスモスの種まきなど）が今年度は開催がなかったが、新たに鷲峯マラソン（11月）への出店を実施した。単なる出店ではなく、鳥取大学とコラボし大学生と共に商品の開発や販売を行う良い機会となった。
- ウ 「協力雇用主」に継続して登録しているが、生活困窮者支援事業等に協力するに至っていない。相談があれば、地域の社会資源としての役割に努めていきたい。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取県新規採用職員体験研修	8. 10. 11月	2人	8人
計		2人	8人

(2) ボランティアの受入実績 なし

5 就労支援事業の実績

作業班	6年度目標額	実績額 (前年度実績額)	達成率	作業の内容
園芸作業班	600,000円	600,000円 (565,000円)	100.0%	園芸作業の受託
清掃作業班	1,290,000円	1,733,780円 (1,290,571円)	134.4%	公共庁舎等の清掃作業
部品組立班	750,000円	842,858円 (975,392円)	112.4%	弱電機器部品の組立作業等の受託
自主製品班	13,660,000円	12,686,154円 (10,936,009円)	92.9%	海産物加工、印刷製品等作成販売
計	16,300,000円	15,862,792円 (13,766,972円)	97.3%	